

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 22042

建築物名称	第一冷延工場増築工事
建築主	日本冶金工業株式会社 川崎製造所 取締役常務執行役員所長 山田 恒
建築物の所在地	川崎市川崎区小島町4-39他
設計者氏名、建築士事務所名	大高 和之 ナスエンジニアリング株式会社 一級建築士事務所
工事種別	増築
床面積の合計	3,951.16㎡
用途	工場(自動車修理工場を除く)
構造	鉄骨造
階数	地上2階
工事完了年月	令和6年2月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

# CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.3.1)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	第一冷延工場増築工事	階数	地上2F
建設地	川崎市川崎区小島町4-39他	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法第22条指定地域	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,280時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 竣工	評価の実施日	2022年11月14日
敷地面積	仮想敷地6,167.21㎡	作成者	ナスエンジニアリング(株) 大高 和之
建築面積	3,572㎡	確認日	2022年11月14日
延床面積	3,951㎡	確認者	ナスエンジニアリング(株) 大高 和之

外観パース等  
パースの公表を希望される場合は  
図を貼り付けてください

### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

標準計算  
①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 2.8

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境	N.A.
温熱環境	N.A.
光・視環境	N.A.
空気質環境	N.A.

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

機能性	N.A.
耐用性・信頼性	3.0
対応性・更新性	4.2

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

生物環境	1.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	2.5

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.2

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 0.0

建物外皮の熱負荷	N.A.
自然エネルギー	N.A.
設備システム効率化	N.A.
効率的運用	N.A.

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

水資源保護	3.5
非再生材料の使用削減	3.1
汚染物質回避	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

地球温暖化への配慮	N.A.
地域環境への配慮	3.3
周辺環境への配慮	3.2

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>2.6</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針に適合している。 植栽を設け良好な景観を形成している。	1.8/4.3	2.1
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標Rw0.5以上	0.8/1.3	3.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>2.5</b>
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能		0.0/0.0	-
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針に適合している。	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		0.0/0.0	-
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	自動水栓に加えて、節水型便器を主要水栓の過半に採用している。 躯体+LGS+仕上とし、躯体と仕上材が容易に分別可能、取外し可能。	3.0/4.7	3.2
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標Rw0.5以上	0.8/1.3	3.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>3.3</b>
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	給水汚水雑排水管の主用途3種についてB以上で、Eは不使用。	0.5/0.8	3.3
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	自動水栓に加えて、節水型便器を主要水栓の過半に採用している。 躯体+LGS+仕上とし、躯体と仕上材が容易に分別可能、取外し可能。	2.6/4.0	3.2
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.6	2.8
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>2.2</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針に適合している。	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		0.0/0.0	-
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標Rw0.5以上	0.8/1.3	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.6**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.2	3.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.8/1.3	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		0.0/0.0	-
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート	実施設計段階				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	重点項目					評価点	重み係数	評価点	重み係数	
配慮項目	G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質										2.6
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温		W								
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備		W								
3.2 グレア対策										
1 昼光制御		W								
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										

Q2 サービス性能						—	0.43	-	-	3.6
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ										
1	広さ・収納性									
2	高度情報通信設備対応									
3	バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性										
1	広さ感・景観									
2	リフレッシュスペース									
3	内装計画									
1.3 維持管理										
1	維持管理に配慮した設計									
2	維持管理用機能の確保									
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1	耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.80			
2	免震・制震・制振性能					3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数										
1	躯体材料の耐用年数		R			3.0	0.20			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R			2.0	0.20			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R			4.0	0.10			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R			3.0	0.10			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R			5.0	0.20			
6	主要設備機器の更新必要間隔		R			3.0	0.20			
2.4 信頼性										
1	空調・換気設備					3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備					3.0	0.20			
3	電気設備					3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法					3.0	0.20			
5	通信・情報設備					2.0	0.20			
<b>3 対応性・更新性</b>										
3.1 空間のゆとり										
1	階高のゆとり					5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ					5.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり										
3.3 設備の更新性										
1	空調配管の更新性					3.0	0.22			
2	給排水管の更新性					3.0	0.22			
3	電気配線の更新性					3.0	0.11			
4	通信配線の更新性					-	-			
5	設備機器の更新性					3.0	0.22			
6	バックアップスペースの確保					3.0	0.22			
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>										
1 生物環境の保全と創出				G	W					
2 まちなみ・景観への配慮				G						
3 地域性・アメニティへの配慮										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上										
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W					

